

Twitter のつぶやきに連動してフォロワーの聴いている曲が伝搬や拡散する音楽サービス

川島誠弘[†] 岡崎 博樹[‡] 上林憲行^{‡†}

[†]東京工科大学大学院

[‡]手仕事工房 ^{‡†}東京工科大学

1. はじめに

近年、音楽視聴機器のハイテク化によって個人が一人で視聴する機会が増えた。また、インターネットの普及によって、様々なジャンルの曲が聴けるようになり音楽嗜好の細分化が進んだ。一方、音楽を「みんなで共有、共感する」体験が得られるライブエンターテインメント市場は年々盛り上がりを見せている。[1]

このことから音楽の視聴方法は個人化が進んでいるが、リスナーは、音楽を通じて他者との交流を望んでいるのではないかと考えた。そこで、社会的な交流が可能な SNS と音楽と連携させる事で、音楽の通じた他者との交流を促進させる。

本研究では、Twitter のフォロワーという関係を利用し、Twitter で普段つぶやくのと同じ要領で、友達と音楽の共有し、音楽を通じてコミュニケーションのきっかけをつかめるサービス「ツイミュ」の提案とプロトタイプの開発を行った。

2. サービスコンセプト

「ツイミュ」は、以下の二つのキーコンセプトから構成されている。

(1) "What are you listening now?"

「今、何を聞いているの?」

(2) リスナーが日常的に聴いている音楽をつぶやきの延長上で伝搬・拡散させる

コンセプト(1)は、Twitter のサービス開始時から同サービスのコンセプトとなった質問 "What are you doing?" 「今何してる?」から音楽に関連づけた。[2] フォローしている人が現在聴いている曲を聴くことができる。

コンセプト(2)では、音楽を聴きながら Twitter を利用することで、いつの間にか、友達の好きな音楽を聴いていたといった、自然に友達と音楽を共有できる。

また、友達から伝わってきた曲を更につぶやきで拡散させる事で、自分の好きな曲をフォロワーで無い人にもフォロワー同士の繋がりによって、聴いているといった状態ができる。

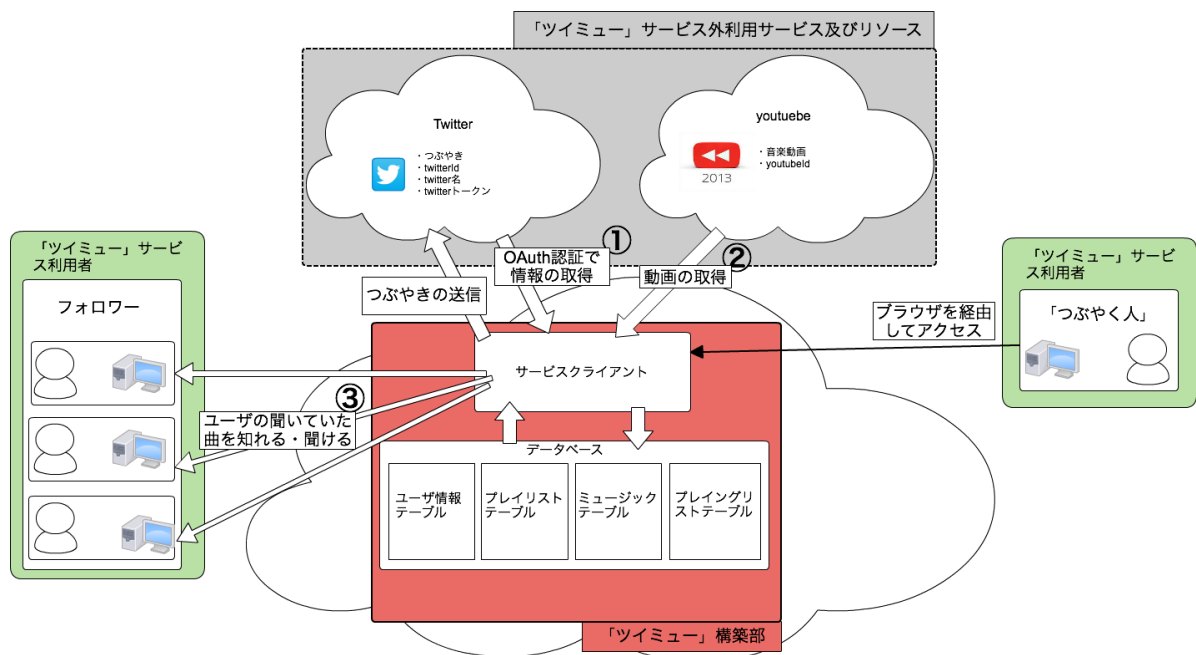


図1 「ツイミュ」サービス構成図

"A Twitter based Music Service to communicate with Twitter users"
 Yoshihiro Kawashima[†], Hiroki Okazaki[‡], Noriyuki Kamibayashi^{‡†}
[†]Graduate School of Tokyo University of Technology
[‡]Teshigoto-Kobo, ^{‡†}Tokyo University of Technology

3. 「ツイミュ」のプロトタイプ

「ツイミュ」プロトタイプサービスでは、音楽に特化した Twitter クライアントとして構築している。

Twitter の基本機能に加え、前項で上げたコンセプトを満たす機能がある。

3.1. 音楽プレイヤー機能

「ツイミュ」では、Twitter の基本機能に付随し、音楽プレイヤーとしての機能を果たす。

Twitter の OAuth 認証を用い、サービスデータベースとの関連付ける。(図 1-①)ユーザが作成したプレイリストを取得し、プレイリストに指定してある曲を、トラック順に並べ替えプレイヤーに予約する。予約されたリストの一番目から曲の再生を行う。

曲の取得にはストリーミングサービス(プロトタイプでは youtube)を用いる。曲の再生終了時に曲の ID からストリーミングサービスを経由し、曲をリクエストする。取得した楽曲を本サービス上で再生する。(図 1-②)

「ツイミュ」は、通常の音楽プレイヤーとして利用される事を想定している。

3.2. つぶやきに連動した曲の伝搬

「ツイミュ」では、「つぶやく人」のフォロワーは、「つぶやく人」がつぶやいたタイミングで「つぶやく人」の聴いている曲がフォロワーの音楽プレイヤーに予約される。このことでコンセプト(2)を満たした。(図 1-③)また、その時にフォロワーの聴いている曲の次の曲に割り込んで予約する事で、コンセプト(1)を満たした。

「ツイミュ」を利用しているユーザが聴いている曲は、常にデータベース上で保存され、タイムラインにつぶやきが表示されると同時に、フォロワーが聴いていた曲の情報を取得する。(図 2)

これにより、日常的に音楽を聴いていたらいつの間にかフォロワーは、つぶやく人が聴いていた音楽をいつの間にか聴いているといった体験を提供し、Twitter のフォロワー同士の音楽をきっかけとしたコミュニケーションを促す。

なお、「ツイミュ」では、ユーザの購入曲ではなく、ストリーミングサービスを利用し曲を再生している。理由は、著作権問題からつぶやきでの拡散時に、ユーザの所有していない曲を再生する事が困難であるためだ。

「ツイミュ」のプロトタイプサービスで

は、youtube を活用している。

4. おわりに

本論では、Twitter のフォロワーという関係を利用し、Twitter で普段つぶやくのと同じ要領で、友達と音楽の共有し、音楽を通じてコミュニケーションのきっかけをつかめるサービスの提案とプロトタイプの開発を行った。

今後の展望として、「ツイミュ」の早期リリースを進める他、この音楽 Twitter クライアントのフレームワーク上に追加できるような、フォロワー同士でのライブエンターテイメント体験を提供するサービスの提案と開発を行って行く。

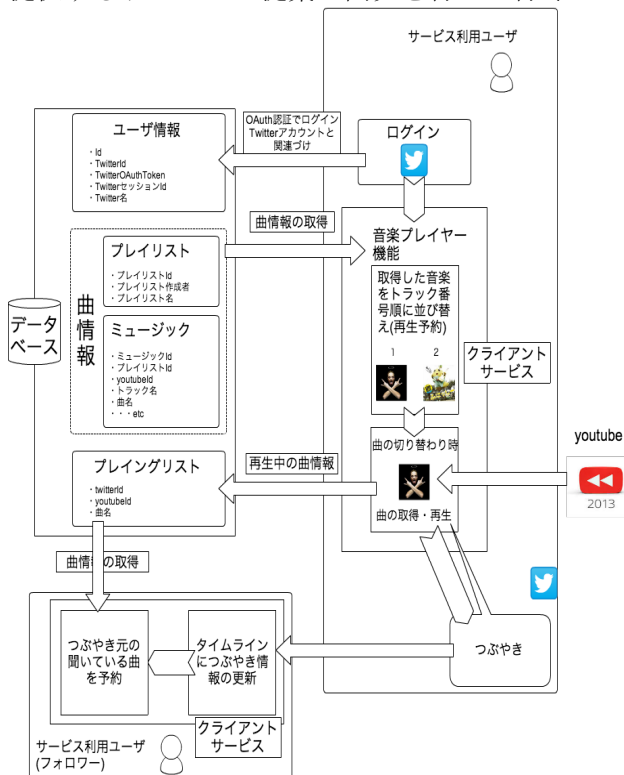


図 2 「ツイミュ」構築部の詳細

参考文献

[1]一般社団法人 コンサートプロモーターズ(2013),「ライブ市場調査データ」,
 <<http://www.acpc.or.jp/marketing/transition/>>
 (2014/01/07 アクセス)
 [2]安藤幸央(2008),「Digital Gadget#102 世界中の独り言 Twitter で今を知る」,
 <<http://digitalgadget.jp/dg102.html>>
 (2014/01/08 アクセス)